

ねん がつ ちゅうじゅんよ あ まえ
2018年 2月 中旬夜明け前

かせい なら 火星とアンタレスが並ぶ!!

発行：福岡県青少年科学館



画像：久留米市の12月12日午前5時の南南東の空
(ステラナビゲーター10で作成)

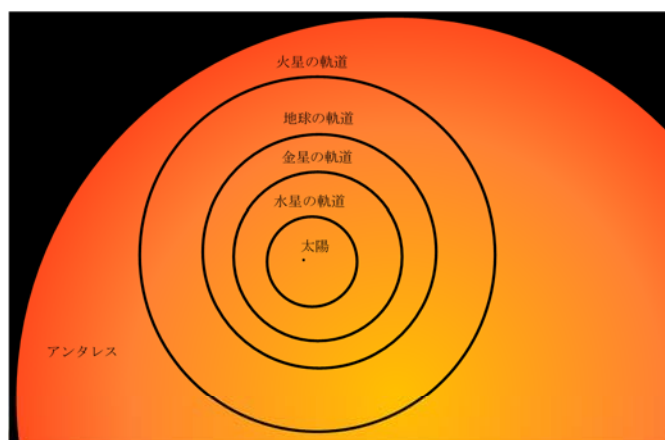
火星とアンタレスが並ぶ

2月中旬ごろ、深夜12時頃から明け方の南東の空で、火星とアンタレスが並んで見えます。最接近は12日ごろです。赤く明るい星が2つ並ぶ光景はとても印象的です。アンタレスの名前の由来は、「アンチ アーレス」火星に対抗するものという意味があります。その名の通り、2つの星が明るさと赤さを競っている姿は必見です。

夜空に同じように赤く輝く火星とアンタレス。しかし、少し違いがあります。火星は、私たちの住む地球と同じで、太陽を公転している「惑星」です。アンタレスは、星座をつくっている星と同じで「恒星」です。惑星は、太陽の光を反射して輝いているのに対し、恒星は自ら光を出し輝いています。

火星はアンタレスに対抗できているのか？

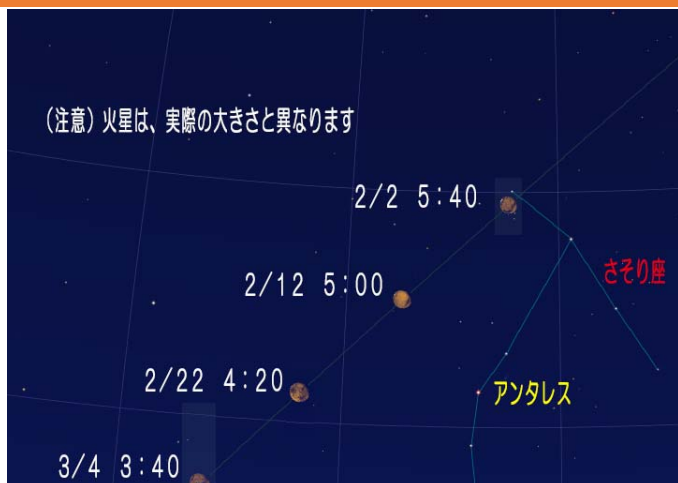
火星とアンタレスを観察すると、見かけが同じように見えます。しかし、アンタレスの大きさは太陽の約700倍と考えられています。そのため、名前は「火星に対抗するもの」ですが、本当の大きさを比べてしまうと、火星はおろか太陽ですら対抗できないくらいの大きさです。見かけが同じように見えてしまう理由は、地球からアンタレスまでの距離が、火星までの距離と比べると非常に遠いためです。地球からアンタレスまでの距離は、約500光年と言われています。



画像：アンタレスの大きさの比較

ちか かせい ていてんかんそく アンタレスに近づく火星を定点観測

天体を観測する方法の1つに定点観測があります。定点観測とは、同じ場所で毎日観測します。火星は、さそり座の横を通るように見えるので、さそり座を目印に探してみましょう。火星に関する天文現象として他には、4月上旬は土星と並んだ姿を観測することができたり、7月31日に地球に大接近したりします。火星が地球に最接近するときの距離は約5800万kmとなります。6000万kmよりも近い距離になるのは15年ぶりです。ぜひ観測してみてください。



画像：久留米市の2/2～3/4の南東の空で移動する火星
(ステラナビゲーター10で作成)